

## 二十歳の誓い

芸術において、私が作るものは私にしか作れないもの。

私はとても多趣味な人間です。最近は専ら音楽に専念していますが、詩を書くことも料理も好きで、ビリヤードやチェス。オシャレをしたり、たまにはこんなふうメイクも。アスレチックも大好きで、ゲーム、裁縫 編み物 読書..... 西洋絵画も好きなので美術館にもよく行きます。

子供の時から好奇心は旺盛で、どんなものでも、興味さえあれば手を出しました。その延長とも言いましょうか、成長してからもなにかと”できるようにになりたい”と思うことの数が多かったように思います。私は男性として生まれましたが、女性的なイメージのある趣味も取り入れていく過程で、性別の枠に囚われないような生き方や考え方もできるようになりました。

ある日学校に手作りクッキーをもっていくと、『女子みたいだ』とからかわれたことがありましたが、後から、男性のパティシエだっでごまんということを知りました。これは『世間一般』や『常識的』などといったよく聞かされる言葉の狭さを知った瞬間だったかもしれません。

そして次第に、『一般的ではない』自分は特に間違っただけでいいのだと理解するようになり、自身を肯定し、自らの芯をしっかりと持った人間を目指すようになっていきました。

多い趣味だっただけ『全て中途半端だ』と言われてしまったら、何も言い返すことはできません。ですがどれも中途半端のうちに辞めてしまったわけでないことは、はっきりとっておきます。確かに私が恵まれた環境にあったことは間違いありませんが、これらは私が、できるようにになりたいと努力し、時には寝る間も惜しんで練習し、習得したものだからです。そしてそれらから得られた経験や感覚すべてが、私の価値観や創作活動に生きています。自分にしかできないこととして、私は芸術を選んだのかもかもしれません。

私は考えます。人間には誰しも必ず、その人にしかできないことがあるはずだ、と。私が作るものは、私にしか作れないもの。私は芸術にそれを見出しましたが、福祉、政治、物作り、教育、様々な場面で、個々の”得意”や”好き”は活かされるはず。遅かれ早かれ、それを見つけるために、我々は人生に挑まねばなりません。

いつか死の床についた時。100歳の私は、まだハタチだった青い私に何を伝えたがるでしょうか。「もっとやれたら」と叱るでしょうか。それとも、「お前はそのままがいい」と笑顔で背中を押すでしょうか。老いた私は、若い私を恨んでいるでしょうか。絶対に彼の、老いた自分の首は絞めないことを、私の二十歳の誓いとしてしたいと思います。ありがとうございました。

令和3年1月11日 新成人代表 會田 天